

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	COVID-19 パンデミック禍における、医療従事者の不安、うつ、レジリエンスの検討
研究責任者	呼吸器内科 出雲雄大
研究機関名	日本赤十字社医療センター呼吸器内科、メンタルヘルス科、健康管理科、看護部、国際医療救援部
研究目的と意義	<p>1. 研究の背景</p> <p>新型コロナウイルスによる感染症である COVID-19 は全世界に広がり、日本においても 2020 年 4 月末時点で約 14000 人の感染者が報告されています。海外では多数の医療従事者がコロナウイルスに感染したと報告され、日本でも同様に院内感染が発生しています。患者数が増加するにつれ、医療従事者の心身の疲労は急激に増加する。自身や家族の感染リスクに対する恐怖、患者や同僚を失う苦痛、個人防護具の不足による不安、そしてそのような状況が持続することによるうつなどが引き起こされると考えられます。COVID-19 患者の診療に携わる医療従事者のメンタルヘルスに関しては海外からいくつかの報告がなされているが、日本からの研究はありません。</p> <p>2. 研究の目的</p> <p>COVID-19 に関わる医療従事者の不安、うつ、そしてレジリエンスの実態を調査するため、院内アンケートが実施されました。この結果を解析することで、当院で勤務する医療従事者のメンタルヘルスを評価することが本研究の目的です。</p>
研究期間	<p>アンケート期間：西暦 2020 年 4 月 22 日 ～ 5 年 15 月</p> <p>解析期間：2020 年 5 月 1 日 ～ 2021 年 4 月</p>
研究方法	<p>【対象】当院に勤務する全職員（非常勤含む）が対象者です。対象者は医師 411 人、看護師 1024 人、他のコメディカルスタッフ 328 人、事務職員 201 人の合計 1964 人。このうち、COVID-19 患者の診療に直接関わる医療者は 200 人でした。</p> <p>【アンケートの実施方法】連結不可能匿名化のうえ、電子カルテを用いてウェブサイト上で実施しました。</p> <p>【アンケートの内容】職種、年齢、性別、COVID-19 患者への直接の診療の有無、GAD-7（不安障害のスケール）、CES-D（うつのスケール）、CD-RISC10（回復力・レジリエンスのスケール）を中心とする質問項目としました。さらに①自身、家族、同僚への感染リスクに関する不安や死の恐怖、②職場や周囲の環境における孤立や理不尽な対応を受けている状況、③勤務のモチベーションや逃避行動に関するオリジナルの質問を追加しました。</p> <p>【解析方法】アンケートの回答結果を統計解析し、以下の項目を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答者数と回答率</li> <li>・ 回答者の職種、性別、年齢</li> <li>・ GAD-7, CES-D, CD-RISC10 の中央値</li> <li>・ GAD-7 と CES-D, GAD-7 と CD-RISC10, CES-D と CD-RISC10 の相関や比較</li> </ul> <p>本研究は後ろ向き観察研究であり、回答者への負担はありません。匿名化処理を行うことで、誰のデータか分からないようにして、統計解析を行います。その結果は、精神疾患に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。また、本研究に参加しなかったとしても、回答者に一切の不利益はありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター呼吸器内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22</p> <p>担当者：栗野暢康、出雲雄大 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>